

# 電子ジャーナル「過剰アクセス」最近の事例 ～意図せず「自分が」ひき起こしてしまうことも！！～

電子ジャーナルの「過剰アクセス」、特にプログラムを利用した大量ダウンロードや、著作権を侵害するような利用は禁止されていることについては、ご理解いただいている方が多いと思います。

しかし最近はそのにも関わらず、電子ジャーナルを利用している最中に「意図せずに」過剰アクセスをひき起こしてしまい、出版社によって、大学全体からの電子ジャーナルアクセスを一時遮断される事例が発生しています。

出版社の多くは、「自動監視システム」を使用して、短時間の電子ジャーナル大量アクセスが無いか監視し、基準値以上の数値を感知した場合は自動的に当該大学からのアクセスを遮断する仕組みを持っていると推測されます。

悪意を持たず、常識的な範囲で電子ジャーナルを積極的に利用していても、機械的に「過剰アクセス」と判断されてしまうケースがありますので、ご注意ください。

出版社から「過剰アクセス」と判断されて、一時的に電子ジャーナルのアクセスを遮断されてしまった最近の事例を紹介します。

皆様にも十分ご注意ください。お願い申し上げます。

## もし「アクセス遮断」されてしまったら？

電子ジャーナル利用中に、画面上に「過剰利用」「アクセス中止」等を表示メッセージが表示され、接続がしにくくなったら、ただちに利用を中止して、以下の連絡先にご連絡ください。

電子ジャーナル・データベースへのお問い合わせ  
<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/form/14106>

そのまま利用を続けると、大学全体からのアクセスが完全に遮断される恐れがありますので、ご注意ください。

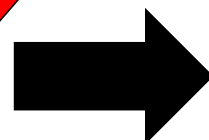
裏面に  
事例紹介

京都大学図書館機構

2015.06.30 作成

2017.06.20 修正

2018.11.19 修正



### Case. 1

論文執筆のめ切が迫っていたため、研究室の同僚と一緒に出版社のウェブサイトへアクセスし、電子ジャーナルを手分けしてダウンロードし、関連論文を収集した。

ダウンロード支援ソフト等のシステムを使わずに、**手動で**電子ジャーナルへアクセスするだけでも、一定時間内でアクセス頻度が高ければ、出版社の監視システムにより「過剰アクセス」と感知される場合があります。

感知の基準は公表されておらず、出版社によって異なると思われますが、「この時間内でこれだけの論文は『通読』できないはず」という程度の基準回数で、「過剰アクセス」と判断される場合もあります。**アクセスが必要以上の速度・分量にならないよう、ご注意ください。**

また、**学内で複数の人**が同一のサイトにアクセスした場合、アクセス元は京都大学共通のグローバルIPアドレスとなり、同一利用者の「過剰アクセス」と判断される場合があります。

### Case. 2

あるテーマについて書かれた論文を網羅的にチェックするために、電子ジャーナルサイト上でHTML形式のアブストラクトを順番に見て行き、特定のキーワードが含まれていないか調査した。

電子ジャーナルの論文本文は、PDF形式でウェブサイトに掲載されていることが多いですが、**HTML形式の本文**の場合もあります。

また、本文ではなく**アブストラクト**にアクセスしただけでも、出版社の監視システムでは「ダウンロード」と感知される場合があります。キーワードのチェックのような単純な作業を繰り返す場合は、必然的にアクセスの頻度が速くなりがちです。

**アクセスが過剰にならないように十分に気を付けて作業を行うか、**或いは電子ジャーナルサイトではなく、**抄録・索引データベース**(Web of Science、Scopus、SciFinder等)のツールを利用して**ください。**

■京都大学図書館 - データベースリスト - 書誌・抄録・索引

[https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/erdb?c=erdb\\_type\\_a](https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/erdb?c=erdb_type_a)



#### 「過剰アクセス」と判断された過去の事例

- 5分間に25回以上電子ジャーナルへアクセスした。
- 約2時間30分に渡って合計約450回電子ジャーナルへアクセスした。

### Case. 3

文献管理・論文執筆支援ソフトを使用していた。当ソフトには「電子ジャーナル自動ダウンロード機能」が備わっているが、システムティックダウンロードは禁止と認識しているため、その機能は利用していないつもりだった。

文献管理ソフトの中には、設定に「**利用者の認証情報**」(SPS-ID、ECS-ID等)を入力することで、**自動的に**文献を取得する機能を持つものがあります。この機能が利用者の意図しないところで働き、「過剰アクセス」になる事例が発生しています。

文献管理ソフトを使用する場合は十分に注意し、「利用者の認証情報」を設定しないようにしてください。

### Case. 4

研究室で電子ジャーナルのサイトを閲覧中、席を外したときに、机の本がキーボードの上に崩れ落ちていた。

キーボードの上に物品が落ちて、ファンクションキーが押しっぱなしの状態になり、電子ジャーナルへの異常アクセス回数が記録されてしまった事故が、過去に複数回発生しています。十分に注意してください。